

7-4 ジオパークを活かした持続可能な地域振興

ジオパークは持続可能な開発という枠組みの中で経済活動を活性化させることを主要戦略目標の一つに掲げている。

西予市では、地域の特色を生かし住民自らが考え実践するために、せいよ地域づくり交付金事業による住民主体の地域づくりや市内分権が積極的に進められている。地域によって慣習や伝統文化などは実に様々であり、ニーズも多様化しているが、課題を地域自らの手で解決に導くことで活力ある西予市を目指している。今後は市民のジオパーク活動の醸成を図りながら、ジオパークを活かした産業振興を通して新たな経済循環につなげることにより持続可能な地域社会の形成を実現する。

(1) 地域づくり組織等が行うジオパーク活動への支援

計 画 内 容

地質遺産などを活用した住民主体による地域づくりへの取組みを支援し、ボトムアップによるジオパーク活動を推進する。

1. 現状・課題

地域主権の発想のもと「自分達の地域は自分達の手で」を掲げ、地域住民の主體的な取組みによる地域づくり活動が平成 23 年度から行われている。

事業実施主体である各地域づくり組織においては、地域独自の特産品の開発や地域資源を活用した地域づくり活動へと結び付ける機運等が徐々に育まれつつあるが、ジオパーク活動やジオツーリズムにつながる取組みを拡大していくことが求められている。

2. 計画詳細

地域に存在する自然遺産や文化遺産など、自分達が住む地域の魅力を住民主体となって掘り起こし、外部へ発信していくことを目指している地域づくり組織に対しては、調査や研究等によってそれらの価値を高めるための支援やジオツアーなどで地域振興を図るための基盤づくりを手伝っていく。今後は、地域づくり組織と四国西予ジオパーク推進協議会とが同じ方向性をもちながらジオパーク活動を進めるために「連携協定」を結ぶといった検討も行っていく。

3. 達成目標

- 連携協定を結ぶ新規組織数

令和7年度末までに3団体以上

(2) 地域の文化遺産や、伝統技術の継承への支援

計 画 内 容

地域づくり組織等と連携し、ジオとのつながりのある文化遺産や伝統技術の継承を図る。

1. 現状・課題

四国山地と宇和海が育んだ四国西予ジオパークには、海・里・山を背景に時代を超えて受け継がれてきた多様な文化や文化遺産、伝統技術が存在している。しかし、市民の高齢化が進み、これらが失われてしまうことが懸念される。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室と関係部署は、地域づくり組織や、民間事業者、専門家等と連携して、ジオとつながりのある文化遺産、伝統技術、伝統工芸品、地域の食文化などに関して、地域の課題を明らかにしながら、継承に向けた取り組みを共に進める。

3. 達成目標

- ジオストーリーに基づき、新たに情報発信する伝統文化や工芸品数

年1件以上

(3) ジオパーク活動に主体的に取り組む市民層の拡大

計 画 内 容

ジオパーク活動を通じて経済的・精神的満足度が高まり、生きがいを感じることができる市民を増加させる。

1. 現状・課題

ジオパークが持続的に発展するためには、地域住民や企業、団体など多様な参加者の経済的・精神的満足度を高めることが重要であるが、市民の主体的な取り組みが十分広がっているとは言えない。

ジオパーク応援店制度なども推進しながら今後の取り組みを進めていく必要がある。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、地域住民や地元企業、団体とのコミュニケーションの場、情報共有の場を設け、自由な発言に基づいてボトムアップで形成されたジオパーク活動を推進する。

また、西予市観光物産協会や商工業組織、農林水産業組織、大学等と連携して、多様な参加者によるジオパーク活動を多面的に展開する。

3. 達成目標

- ジオの魅力発信や交流事業を実施する団体・組織の数 年3件以上

(4) ジオ認定ブランド「四国西予ジオの至宝」の推進

計 画 内 容

関係部署と連携して、四国西予ジオパークに関わるジオストーリーを語ることができる産品をジオブランドとして認証する「四国西予ジオの至宝」制度をさらに充実させる。

1. 現状・課題

海拔 0mからの標高 1,400m までの標高差を有する市内特産品は代表的な柑橘のほか、魚介類、米、ぶどう、栗、乳製品、畜産品などがあり、1つの自治体としては全国でも有数の多品目産地である。また、これらを活用した加工品も数多く存在する。それら多くの特産品は地形や気候といった大地の影響を受けたジオの恵みであり、これらの商品は四国西予ジオパーク内のジオサイトと同様にジオストーリーを語る事ができる潜在性を有しており、地域におけるジオパークを活用した新たな産業の仕組みづくりを進める必要がある。

2. 計画詳細

四国西予ジオパークの持つ多様な生産環境を活かした産品や、大地との関係が明確でありジオとのストーリー性を有する品目については、他産品との差別化・ブランド化を図ることで、一歩踏み込んだ形でジオパークを活用できる仕組み「四国西予ジオの至宝」を平成 28 年度に制度化した。四国西予ジオパーク推進協議会の物産部会が中心となり、地域内の 1 次産品と産業のマッチングを推進しながらジオの恵みを活かしたブランド化による商品価値の向上を図り、地域産業の活性化をさらに促すため、ジオブランド認証制度「四国西予ジオの至宝」の推進に積極的に取り組む。ジオブランドに認定された産品については、市内外での PR や都市部でのマッチングをはじめ、市及び関係団体等が連携して、消費並びに販路拡大を支援する。



- ・奥地あじ
- ・奥地あじの一夜干し
- ・奥地の海のおもてなし飯 生あじ
- ・奥地の海のおもてなし飯 あじ塩焼き



- ・明浜産真珠ネックレス～つなぐ～



・カマンベールチーズ 森のろまん



・田力米



・四国カルスト天然水ぞっこん



・豆道楽豆腐



・こどもケチャップ
・トマトユズポン

四国西予 ジオの至宝
認証商品数 11品
(R5.3.31 現在)

3. 達成目標

■ブランド認証商品数（累計）

令和7年度末までに 12件以上

(5) ロゴマークの活用

計 画 内 容

ロゴマークの使用方法や活用例を広く周知することで四国西予ジオパークロゴマークの各種媒体や関連農産品への使用を促し普及に努める。

1. 現状・課題

四国西予ジオパークを表現したシンボルマークであるロゴを定めており、営利目的でなければ誰でも自由に使用することができる。また、営利目的であっても四国西予ジオパーク推進協議会へ使用許可申請書を提出することにより幅広く利用することができる。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、ロゴマークの普及をさらに進めるために、平成27年度に制定した「利用に関するガイドライン」に準じて、広報誌やHPを通じてロゴマークの解説や利用について継続的に市民へ広く周知を行うとともに、市民活動をはじめとする各種イベントやジオパーク応援店、市内の1次産品を活用した地域産業等への使用を促す。

さらに、今後さらなるロゴマークの利用促進のためのガイドラインの適正化を進めるとともに、市外に広く流通する商品包装等への活用や手軽に利用可能なロゴシールの作成検討を進める。



活用例1(木製名札ケース)



活用例2(せいよ Go To 買い物キャンペーン)

3. 達成目標

■ ロゴマーク新規使用承認年間件数 年3件以上

7-5 持続可能なジオツーリズムの創出と推進

ジオパークで行われる観光（ジオツーリズム）は、地質・地形、生物、生態系、地域の文化を、単なる観光資源として開発するものではなく、保全を優先したうえで賢明な利用（ワイズユース）を図る持続可能な開発の方法論に基づくものでなくてはならない（「日本ジオパークネットワークの自然資源保全に関する指針」より抜粋）とされている。

そういった視点を基本に持ちながら、地質・地形、生物、生態系、地域の文化を楽しみながら学んでもらうことを通じて、それらを保全したくなる気持ちにさせることを基本に据えたジオツアーの造成やジオガイド養成にとりくむ。

(1) 市内事業者や組織等と連携した多様性を感じられるジオツアー

計 画 内 容

市内事業者や組織・団体、ジオガイド等と連携することにより、地質・地形や、生態系、文化、人々の暮らしといった四国西予ジオパークならではの多様性を感じられる魅力的なジオツアーを展開する。

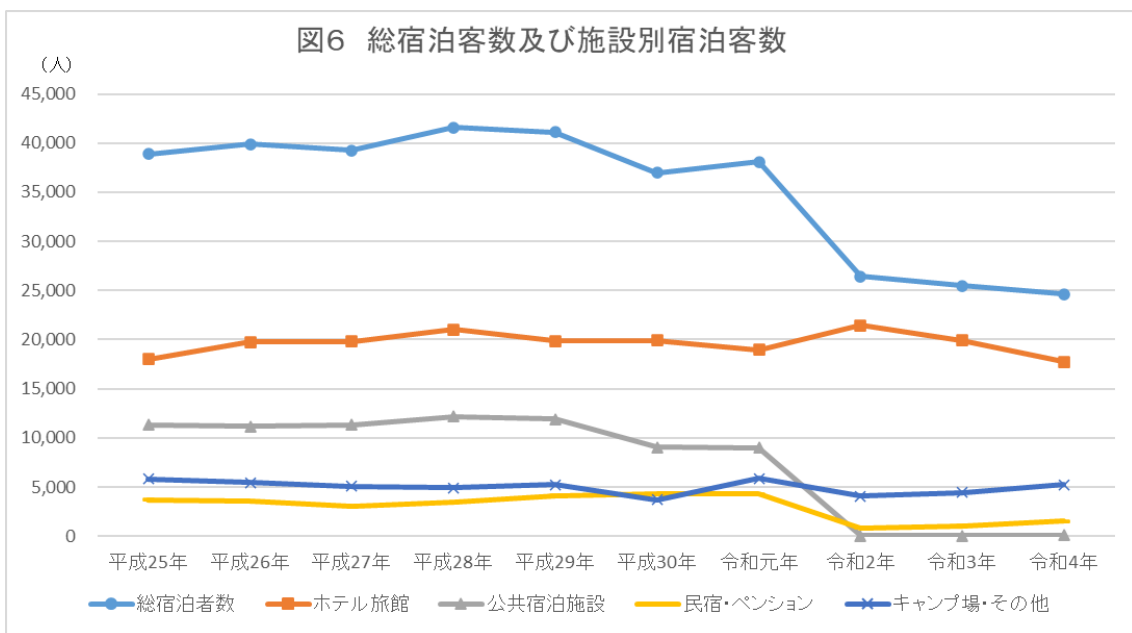
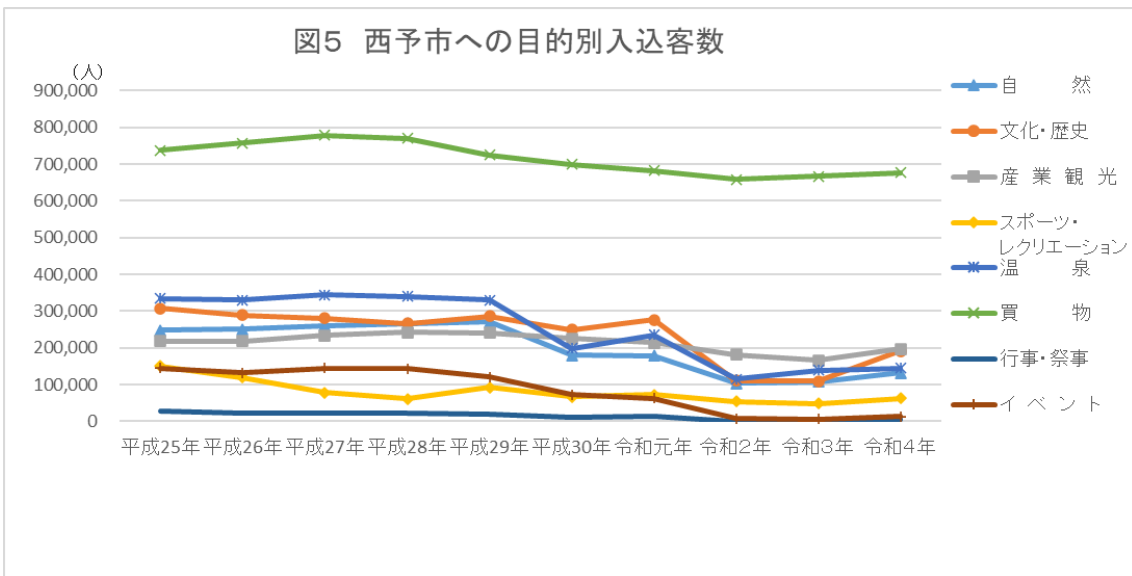
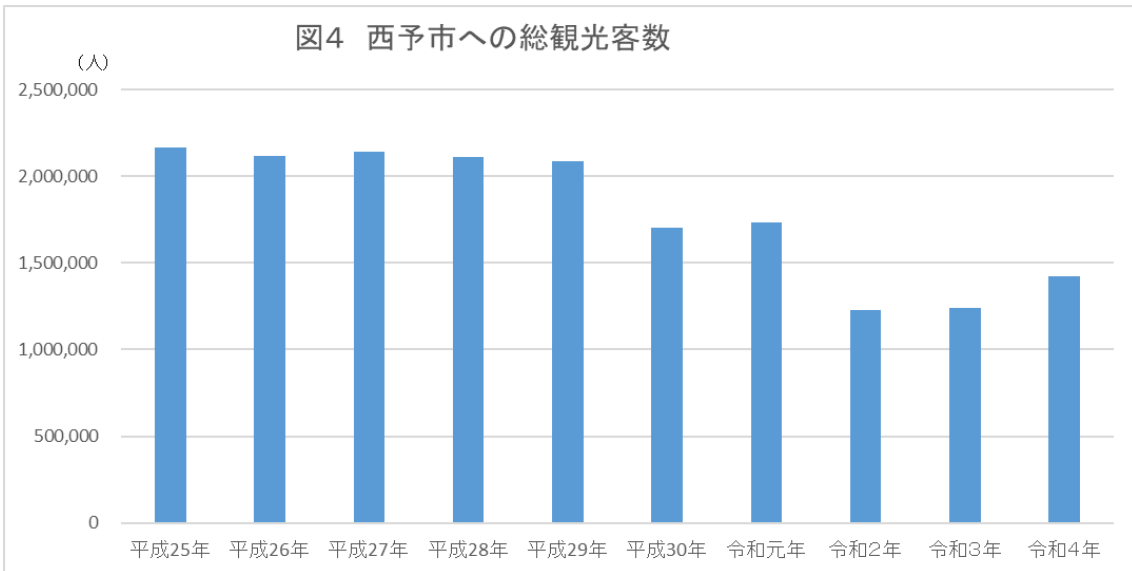
1. 現状・課題

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年度以降の西予市における総観光客数および宿泊者数が大きく減少しており、ジオガイド付きのツアー客についても同様の傾向がみられる。市内各地の災害復旧と併せて、ウィズコロナ・ポストコロナ時代におけるジオツーリズムの環境整備を図る必要がある。

四国西予ジオパークは四国山地から宇和海海岸部に広がる東西約50キロ、南北約10キロの中に、人々が暮らしている場所の標高差が1,400mあり、地質・地形や気候、生態系、文化には豊かな多様性が見られる。

これら、多様性を感じられるジオツアーの資源は豊富ではあるが、ツアー化できているものはまだ少なく、これまでも市外の旅行業者が企画したジオツアーが単発的に行われてきたのみである。

さらに、地域に存在するありのままの風景を体感しながら歩く「フットパス」といった手法で来訪者に自分たちの住む地域を楽しんでもらおうといった動きも芽生えてきた。



2. 計画詳細

四国西予ジオパークを訪れる多くの来訪者のニーズを捉えるために、多面的な調査やモニターツアー等を実施する。客層や移動手段等を踏まえた魅力的なジオツアーを民間企業及び団体、NPO 法人等が企画、実施するために、経済振興課、まなび推進課、ジオパーク推進室、四国西予ジオパーク推進協議会等が連携して、安全にツアーを楽しめる環境整備や情報発信等への活動支援を行う。

併せて、地域の価値を再評価して関係者等で共有し、“売れる”ストーリーをつくり、認知度を高める努力を行う。

さらに、利用者の情報や満足度のアンケートを実施するなどのマーケティングを行い、市内の観光事業者等とも連携してジオパークの理念に沿った魅力的なジオツアーを造成する。

また、フットパスは、個人の居宅付近や、地域管理の道を通ることが常であり、地域資源への理解やそれらをつなぐ道の清掃など、地域の協力が不可欠であるため、地域組織等による主体的な取り組みに対して積極的な支援を行う。

3. 達成目標

- 市内観光事業者等と連携したジオツアー催行件数 年5件以上

(2) ジオガイドの養成

計 画 内 容

継続したジオガイドの養成によりガイドの質の向上を図るとともに、新規ジオガイドの確保を目指す。

1. 現状・課題

ガイドの資質向上とガイド業務の適正な運営を確保し、訪問者へのサービス向上を図るために認定ジオガイド制度を整備している。

また、平成24年度より各地域で開催している四国西予ジオガイド養成講座やステップアップ研修を継続することで、さらなる人材発掘とジオガイドの自立支援を行う必要がある。

2. 計画詳細

平成 30 年度には、ジオサイトやジオパーク内の見どころ、動植物、文化などの基本的な情報をまとめた四国西予ジオパークガイドブックを出版した。ジオガイドへの配布や道の駅での販売を行っており、その活用とPRを進める。

ジオパーク推進室は、訪問者に対してより安心して適切なガイドを提供するために、四国西予ジオガイド養成講座や認定ジオガイドのスキルアップへの支援等を継続的に実施することによりガイドの質の向上を図るとともに、新規ジオガイドの確保を目指す。講座では、地質、地形、生態系、文化等を専門とする講師や県立博物館、愛媛大学、スポーツ・文化課等と連携することでジオガイドとしての基礎知識や接遇マナーの向上を図り、四国西予ジオパークを案内することができるガイド養成に取り組む。また、ガイドをボランティアではなく、一つの観光産業と位置付け、ガイド団体が作成するモデルコース及びツアーの企画といった主体的活動を強化しジオガイドとして自立できる体制づくりを支援する。



ジオガイド養成講座

ジオパーク推進室は、ジオガイドやジオガイドを志す市民がスムーズにガイド業務に取り組むために、最も基本的な情報を取りまとめたガイドブックの活用を図り、ジオガイドがそれによる円滑なガイド業務遂行の支援と、ジオガイド各人の知識均一化と質の向上、基本情報の共有に取り組む。

3. 達成目標

■認定ジオガイドの数(累計)

令和7年度末までに20人

■ジオガイドが観光客にガイド業務を行った件数

年40件以上

(3) 国際交流、インバウンドへの対応

計 画 内 容

国際化に対応し外国人も楽しめるジオツアーへの環境整備を進める。

1. 現状・課題

新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの外国人観光客は大幅に減少しているものの、インバウンド再開に向けて外国人観光客に受け入れられるジオパークを目指して各種表示物等やジオツアーリズムの環境整備を推進する必要がある。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、インバウンド※1に対応するため、愛媛大学や観光物産協会と連携してパンフレットや看板等の多言語化を図るとともに、外国人目線での市内各所の調査を実施し、外国語に訳して情報発信を継続的に推進する。

また、モニターツアー等の実施により、外国人向けの体験ツアーメニューを開発する。



四国西予ジオパークHP（英語版）

※1) 外国人が訪れてくる旅行のこと

3. 達成目標

■多言語化に対応したパンフレットや看板等の数

令和7年末までに7件以上

■外国人対応のツアーコースの数

令和7年末までに2件以上

(4) 交通網の充実と利便性の向上

計 画 内 容

公共交通機関や民間業者等との連携強化を図り、エリア内を巡る交通手段の強化や利便性の向上を図る。

1. 現状・課題

四国西予ジオパーク内の各ジオサイトへのアクセスについては、道路網や公共交通等が十分に整備されていないことから各地を巡る交通手段が非常に乏しく、関係業者との連携も希薄である。

2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、来訪者が容易にかつ効率的にエリア内を移動できるように公共交通機関や民間タクシー事業者、レンタカー事業者等との連携を強化するとともに、タクシーや駅舎内におけるパンフレットの設置、事業者へのガイド学習を進めることによる利便性の向上に取り組む。

また、将来的には、マイカーを利用できない市民や観光客が気軽にジオパークを体験してもらうために、市内中心部と、どんぶり館やシルク博物館、乙亥会館、四国西予ジオミュージアム、ギャラリーしろかわ、きなはい屋等の城川中心部の施設、宝泉坊関連施設を結ぶ西予市横断型のバス路線造成の可能性について検討する。

さらに、道路網の未発達がアクセスの大きな障壁となっていることから国道や県道の整備促進について長期的な視点をもって継続的に要望を行っていく。

その他、自転車やE-BIKE等のレンタルやサイクリングロードの整備などの事業を推進し、西予市内での観光客等の周遊や交流人口の拡大を図る。

3. 達成目標

■パンフレットやホームページに掲載できる事業者数

令和7年末までに2件以上